

映画の小箱

中学の同窓会で再会した男女2人。かたや断片的で曖昧な、かたや美しくも鮮明な思い出を互いにたぐり寄せ、まだ見ぬ自分と出会う。

金丸弘美=文

text by Hiromi Kanamaru

『コキユ 貝殻』

たぐるほどに深く沁み入る
幼い日の美しい記憶

ときどき、ふと幼少の記憶が蘇ることがある。たいていは、断片的で、しかし、記憶をたどると、その記憶の周りは、意外と現実よりも詳細で鮮烈だったりもする。だが、ほとんどの記憶は、いつも心の奥底に眠っているか、あるいは忘れ去られてしまう。だからこそ人は、大人への生活を営んでいけるのかもしれないし、

未来へも進んでいくのだろう。ときにづらいことにもぶつかり、新しい喜びに憩いを見つけ、生活の営みを淡々と重ねながら。

コキユ。なんと美しい響きだろう。コキユとは、貝殻の意味。その貝殻に込められた主人公の記憶の糸を紡ぎ、美しい過去という織物を編むような、そんな話だ。

三十年ぶりの中学の同窓会。集まったのは十人ちょっと。賑やかな宴のなか、隅でおとなしく座っている女性がいる。そんな彼女の存在が記憶にない同窓生もいる。彼女は早瀬直子(風吹ジュン)。噂では東京で喫茶店を経営していたが、離婚して子連れで帰郷し、スナックを営んでいるのだという。彼女が黙ったまま、じっと見つめていたのは、同じ同窓生の浦山達也(小林薫)だ。

同窓会の二次会は、カラオケの店。そこで初めて早瀬は浦山に声をかけた。

「浦山君。三十年ぶりね。今度お店に来て」

浦山は、彼女の記憶は曖昧なままだ。

浦山は早瀬に誘われ、踊った。そのときに早瀬は浦山の耳元でそっと囁いた。

浦山は、地元の工場で働いている。上司とともに東京へ転勤する話が出ている。

あるとき上司に誘われ、飲みに出た。そこ



で、ふと見つけたのが、早瀬のスナック『コキユ』だった。浦山は上司を連れて店に入り、このとき浦山は早瀬と再会した。浦山は早瀬にコキユにまた行くことを約束する。

次に浦山が店を訪ねたとき、早瀬は彼が今の会社の運動部で剣道をしていることを知る。中学時代も浦山は剣道部で、その稽古の様子を早瀬は中学時代、いつも見ていたことを話す。浦山は、早瀬が稽古を見ていたという記憶ははつきりしない。

浦山が店から道路に出たときに、横から突然トラックが走ってきた。早瀬は驚いて浦山を道路から引き寄せ、抱きしめる。

「怖かった」

その言葉は、浦山には聞こえない。実は浦山は幼少の頃、熱で右耳が聞こえなくなっているという。そのとき、早瀬は中学の卒業の日、浦山に崖から飛び降りるような思いで、

「くらかけ橋で三時に待っています」

とすれ違いざま耳元で言ったことを、浦山が聞いてなかったと知った。好きだった浦山に、気持ち伝わってないのではなかったのだ。そして再会した同窓会の日、浦山に囁いた『ずっと思っていた』という言葉も通じてはいなかったのだ。

道ある限り **FALKEN**



速く走れる、心地よく乗れる。
毎日走りたくなるスポーティ&コンフォート、
ファルケン・ジークス。

FALKEN

ファッションブル&スポーティ、定評のジークス。

**ZIEX
ZE-502**



40/45ZR / 50/55VR / 60HR

静かでキビキビ、コンフォート系スポーティタイヤ。

**ZIEX
ZE-326**

NEW



35/40/45ZR / 50/55VR

オーツタイヤ株式会社

大阪府泉大津市河原町9番1号 〒595-8650 TEL.0725(23)1001

商品種に関するお問い合わせは、☎0070-800-325536 を御利用ください。

インターネットホームページ <http://www.falken.co.jp>



早瀬は、また来てほしいと浦山にねだる。それから浦山は、繁く早瀬のもとに通う。そして、浦山は、早瀬の中学時代の心の中に仕舞い込んだ記憶によって、次第に自分の姿を過去から紡ぎだしていくのである。浦山は、中学のお楽しみ会用に包んだジャン・コクトーの詩『コキーク』と貝殻が、早瀬に渡り、それを早瀬がずっと大事に持っており、店の名前になったことを初めて知る。ある日、浦山は東京への異動に際する営業

の挨拶と妻に偽り、早瀬に誘われ、中学時代、遠足へ行った山に登る。そして、その夜、二人は温泉に泊まる。早瀬にとってそれは中学の思い出の場であり、夢であったのだ。生真面目で仕事一途にきた浦山は、今だけを見つめ、なにも疑いもせずに生きてきたのだろう。浦山は、早瀬によって、自分の知らない自分に再会するのだ。一方、早瀬は、中学の恋を現実として生きはじめる。不倫といえは不倫なのだが、微妙にぎりぎりのところで泥臭さから免れている。それは、だれもが持つているだろう、記憶の美しさという物語に焦点が合っているからだ。そして、同窓会という、だれもが経験する接点を丁寧に描くことによって、日常のなかに美しさとリアリティを現出させた。この物語は、美しい記憶の話でもある。とはいっても、ファンタジックな妖精も、派手なアクションも、華麗なファッションも登場しない。日本のどこにでもありそうな、日常の物語なのである。だからこそ、この物語が実感できて、まるで体や心にまでしみ入るような印象が残るのだろう。

『コキーク 貝殻』

(1998年 松竹)

監督: 中原 俊

出演: 風吹ジュン / 小林 薫 / 益岡 徹 / 深木 三章 / 吉村 実子 / 二瓶 鮎一 /

岩松子 / 金久美子

配給: 日本ヘラルド映画 3月シネスイッチ銀座で公開予定